

長野県諏訪市（視察日：令和7年10月29日） 議会運営について

1 諏訪市の概要

昭和16年上諏訪町、豊田村、四賀村が合併し、市制を施行した。その後、昭和30年に隣接の中州村、湖南村が合併し現在の諏訪市となった。諏訪市は、日本のおへそと言われる諏訪湖、霧ヶ峰高原、諏訪大社や上諏訪温泉など、天与の自然と悠久の歴史文化に恵まれた観光都市であると同時に、進取の気質とものづくりの伝統が息づく先端技術産業の集積地である。先人から引き継ぐこれら貴重な財産を大切に守り、磨きをかけ、人が集い、人が育ち、人が安らぐまちづくりを推進し、「透明度日本一のまち 輝くSUWA」の実現を目指している。

- ・市制施行 昭和16年8月10日 ・面積 109.91km²
- ・人口 46,768人(R7.4.1現在) ・世帯数 21,367世帯
- ・都市形態 工業 ・観光 (湖、温泉、高原)都市
- ・議員数 15名 ・議長 牛山 正

2 視察目的

○諏訪市議会の「議会活性化の取り組み」について、下記のとおり事前の質問事項について回答を頂き、再質疑・応答する中で、当市において参考になるべき点を模索し、今後の市議会を活性化させ、市政発展に繋げる。

●議会活性化の取り組みについて

- ・議会活性化で苦勞している点、課題克服のため活動を具体化している事、その成果について
- ・議会改革アドバイザー岩崎氏の存在や、千曲市議会・埼玉県宮代町議会との合同意見交換会の取り組みについて
- ・傍聴者用託児サービスの利用状況について
- ・マニフェストスイッチの登録による有権者からの反応について

●議会基本条例の検証について

- ・検証を行うにあたっての具体的な手続きの流れについて
- ・検証時期について(定期的に行っているのか、意見が出た時に行っているのか)

●政策提言について

- ・議会として政策提言、予算要望する時の手続きの流れについて
- ・これまでの実績について

3 視察内容

別紙次第のとおり、諏訪市議会議長 牛山 忠氏より歓迎のご挨拶を頂き、当市阿部委員長より受入れ感謝の挨拶、その後、諏訪市議会 議会運営委員長 伊藤浩平氏、吉沢三樹郎氏、社会文教委員長 牛山実弦氏、大津学氏から事前質問についての説明(パワーポイント)を受け、その後質疑応答となった。

(別紙説明資料等)

- ・当市作成 諏訪市概要(タブレット内)
- ・諏訪市議会だより
- ・諏訪市勢要覧2019

4 所 感

議会の活性化を図るうえで第三者の意見を参考にするうえでアドバイザーの存在とその力を借りている自治体があることがわかった。マニフェストスイッチを活用し、広く周知することで市民の問題意識を掘り起こし議員の特色やスキルアップにもつながるのではないかと思う。傍聴者託児所サービスは利用者が少ないとはいえ開かれた議会にしていくための選択肢として否定できない。

議会基本条例の検証、見直しについては、検証シートを使って毎年行っているとのこと、5年間公開しているとのことと市民の厳しい目に耐えられる議会活動の構築が求められる。当市も基本を大切にしたい検証シートの作成とその時々の問題での検証が必要ではないか。

政策提言については、委員会で年度当初から約5ヶ月かけてたたき台を作り総合計画なども参考に検討しているとのこととテーマを決めて行政視察の目的とも整合性を持たせ実施することは重要だと思う。議員共通の問題での研修会、勉強会を実施し、政策提言に繋げていければと思う。

長野県長野市（視察日：令和7年10月30日） 議会運営について

1 長野市の概要

長野市は、北アルプスに源を発する犀川の扇状地と、千曲川の沖積池によって形成された肥沃な長野盆地に位置し、平安の昔から「三国一の霊場」善光寺の門前町として日本全国に親しまれてきた。戦国時代には上杉・武田両氏はその所領を争う地となった。明治22年4月町村制施行により4町1か村が合併して新たに長野町となり、明治30年市制施行により、県内で初めての市としての長野市が誕生し、中央の出先機関や経済・文化面に渡る中心的機関が集中され、また、信越本線・篠ノ井線が開通するなど、政治、経済、文化及び交通の要衝として急速に発展した。その後、大正12年7月隣接の1町3か村を編入合併した。更に昭和29年4月隣接の10か村を編入合併し、市域は拡大され、道路整備、信越・篠ノ井両線の輸送強化による産業の発展と相俟って近代的な大都市としての基礎が築かれた。昭和41年10月、長野市、篠ノ井市、松代町、若穂町、川中島町、更北村、七二村及び信更村の2市3町3か村の大合併により、面積404km²、人口27万の都市となった。平成8年9月に人口は36万を超え、平成9年4月1日には明治30年の市制施行以来100周年を迎えた。100周年記念事業として第18回オリンピック冬季競技大会(平成10年2月)が開催された。平成11年4月1日、中核市に移行したことにより、これまで以上に市民に身近な行政をスピーディーに処理できることになった。平成17年1月に豊野町、戸隠村、鬼無理村及び大岡村を、平成22年1月には信州新町、中条村を編入合併し、新たな長野市がスタートした。

- ・市制施行 明治30年4月1日 ・面積 834.81km²
- ・人口 360,540人（R7.4.1現在） ・世帯数 165,081世帯
- ・議員数 36名 ・議長 若林 祥

2 視察目的

○長野市議会の「議会活性化の取り組み」について、下記のとおり事前の質問事項について回答を頂き、再質疑・応答する中で、当市において参考になるべき点を模索し、今後の市議会を活性化させ、市政発展に繋げる。

- 常任委員会インターネット中継について
 - ・一般質問、総括方式と一問一答形式の割合について
 - ・質問と答弁時間について
 - ・質問形式に対する議員からの声は何かあるか
- 議会基本条例の検証について
 - ・導入時期と議案などタブレット活用状況について
 - ・データの保存期間、議員が使用しての感想は、今後の活用範囲について
- 市民(学生)との意見交換会について
 - ・対象者の選定について

- ・意見交換会はどこが担当して進めるか
- ・開催状況について(年間何回の開催か、開催地域分けなどはどうしているか。意見項目の決定はどの様に決めているか)
- その他
 - ・議会活性化委員会の取り組みについて、今後新しい取り組みがあれば教えて欲しい。
 - ・議会傍聴時の手話通訳・要約筆記サービスの利用状況について
 - ・議会傍聴時に利用できる乳幼児一時預かりサービスの利用状況について

3 視察内容

長野市議会副議長 市川和彦氏より歓迎のご挨拶を頂き、当市阿部委員長より受入れ感謝の挨拶、その後、長野市議会事務局総務疑似調査課 次長兼課長 竹内 徹氏、同局同課 係長 伊藤敏明氏から事前質問についての説明(別紙資料)を受け、その後質疑応答となった。

(別紙説明資料等)

- ・当市作成 諏訪市概要(タブレット内)
- ・別紙資料 1～5
- ・別紙議会概要
- ・長野市議会だより
- ・長野グルメガイド
- ・長野市街散策案内他パンフ
- ・長野市「ここから旅の始まり」冊子

4 所 感

開かれた議会として常任委員会の YouTube を利用した中継というものが安価に出来るので当市議会でも検討課題に挙げて良いのではないかと考える。長野市議会では一定の緊張感があって運用しているとのことだ。一問一答方式の導入は議員の質問方法の選択肢として導入の検討が必要ではないかと考える。

議員のタブレット端末の利用は経年で変化するものと考え。個人の使い方は一定のルールを決めて使うことは大切だが、使い方の検証方法については検討が必要ではないかと考える。

長野市議会のワールドカフェ形式での高校生、学生との意見交換会は、議員側も若い方からも相互理解をする場として大切な場になっていると思う。当市は議会報告会と意見交換会を1部2部と分けて実施しているが意見交換会の方が活発な意見がでてくる感じがする。議会報告会のテーマや意見交換会のテーマを市民に知ってほしいこと、興味がありそうなことなど事前に十分検討して決めていく必要が有るのではないかと考える。また、年代制限なく市民との意見交換がまんべんなく行えるように計画的な運営や工夫も考えて年間開催数や周知方法も検討する必要があるように思う。